



Handwritten text in cursive script, likely a poem or a list of items, written on aged paper. The characters are fluid and connected, typical of the 'caoshu' style.

古子... (Vertical handwritten text, possibly a signature or a specific title related to the collection.)

和漢朗詠集卷上

春

立春 早春 春去 春興

春夜 子日付あ 二月付あ 二月付あ

暮去 二月盡 二月

鶯 霧 西 梅付あ 柳

上

花付落 蹴踏 款冬 藤

夏

更衣 首夏 夏初

端午 纳凉 晚夏

花楼 莲 郭二

萤 蝉 扇

秋

立秋 早秋 七夕

殊 与 始 晚 蟋 夜

八月 中秋 付月 九月 元日 付

九月 画 葭 花 款 菊

橙 方 裁 紅葉 付落 紫

雁 付 鷺 出

露 勢

磨 擣 衣

冬

初冬 冬夜 歲暮

爐火 霜 雪

冰 付 委 爰 佛 名

春

立春

送 吹 韶 開 而 約 芳 菲 復 迎

春 乍 暖 將 希 雨 落 之 恩

池 凍 凍 須 風 度 為 梅 香 而 言 封 氣

柳 正 氣 力 條 空 動 池 有 波 又 冰 為 開

今 身 不 知 誰 計 以 春 風 長 水 一 時

公垂信

崔茂

白居易

夜の跡更なる聲も生るる曉の光
しらけりしうらみもはきふりし
袖のしらけしひもひらけりし
まきしけりしふもひらけりし
山もけりしけりしけりし

早春

氷の跡更なる聲も生るる曉の光
しらけりしうらみもはきふりし
袖のしらけしひもひらけりし
まきしけりしふもひらけりし
山もけりしけりしけりし

東岸の西岸の柳もまきしけりし
枝の枝も梅の開花も
保胤

空の雲も麻もまきしけりし
空の雲も麻もまきしけりし
空の雲も麻もまきしけりし

庭の草も花もまきしけりし
庭の草も花もまきしけりし
庭の草も花もまきしけりし

山もけりしけりしけりし
山もけりしけりしけりし
山もけりしけりしけりし

志香白草子

見まじきはひのりさるるの
まじりてはひのりさるるの

五言

春興

花下忘油園散香檎の動研乞風

野草芽花紅綠地紅綠亂紅紫

劉禹錫

秋酒夢花夢又夢之夢後庭春

山桃後野桃月蝶紅錦之梅門

紅深月

柳後春物風元紅錦

着野香及紅錦繡中紅錦紅錦

出達音

林中花雨園為天外紅錦或有力

筆秋和月夢思紅海風風又佳

色一乃紅うもや

色はわるといふと

赤人

色はわるといふと

春夜

背猶在紅深月紅花園憶

梅さすてふ人さのしとさる乃妙
こころにつれんるさるさるさる
貫之

二月三日付梅花

春來雪過是梅花オキナリ花枝香發仙源何處尋ヲカ 玉羅
美ニ音香ニ音香月ニ音之三期天解千花ニ音 桃
李オキナリ武オキナリ也オキナリ我后一日之澤オキナリ為梅オキナリ餘オキナリ也
水オキナリ難オキナリ為オキナリ之オキナリ是オキナリ在オキナリ難オキナリ絶オキナリ書オキナリ為オキナリ已オキナリ字オキナリさオキナリるオキナリ知オキナリ
比オキナリ勝オキナリ思オキナリ就オキナリ人オキナリ心オキナリ欲オキナリ風オキナリ之オキナリ名オキナリ言オキナリ也オキナリ之オキナリ

淡如小席オキナリ 今

烟オキナリ家オキナリ夢オキナリ筆オキナリ上オキナリ在オキナリ因オキナリ此オキナリ李オキナリ香オキナリ源オキナリ仙オキナリ効オキナリ至オキナリ
水オキナリ成オキナリ也オキナリ字オキナリ福オキナリ之オキナリ言オキナリ此オキナリ周オキナリ之オキナリ坊オキナリ交オキナリ霜オキナリ
礙オキナリ石オキナリ在オキナリ來オキナリ夢オキナリ心オキナリ福オキナリ福オキナリ守オキナリ流オキナリ道オキナリ之オキナリ言オキナリ之オキナリ言オキナリ
和オキナリ面オキナリ偷オキナリ酒オキナリ為オキナリ波オキナリ之オキナリ眼オキナリ新オキナリ梅オキナリ晚オキナリ
風オキナリ殘オキナリ吹オキナリ不オキナリ言オキナリ之オキナリ言オキナリ先オキナリ嘆オキナリ
とちりさるにたるとさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
さるかさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

暮春

拂水柳花紅芳草綠海梅雪香
低柳鶯啼綠波曉亂綠野鳥鳴
人盡東家酒樽年空老
源順
割白鳥飛今日好春
三月夜
真風

三月夜

留春
秋風
竹院
惆悵
道
萬
每
上
傳敬

多ふのそくけらとわもたらあはる
そらうらとらととさ花乃うけうハ
もかもみふらりあうらとハゆくとふ
ありとらとらとらとらとらとらとらと
まこととらとらとらとらとらとらとらと
おふあしあはるはらとらとらとらとらと

朝恒

貫之

母貫

同三月

今年同古春二月割分全復二月也
降新秋寫又運由於此也

源順

陸待郎

花物油根無梅名成名之也
うはかくらとらとらとらとらとらとらと
人のこらなわらとらとらとらとらとらと

伊勢

号

鶏鳴忠信は日鳥未出を望まざる
誰か石樹寫いあお誰か中へ
歩かすもあそとらとらとらとらとらとらと
同旁の上りあしあそとらとらとらとらとらと

謝観

及

タリ

香炉の煙は清き水に薫る風流
の聲は清き水に薫る風流

空は雲に相映し、水は石に相映し

金魚の波は清き水に薫る風流

燕雀の神鳥は清き水に薫る風流

周郎の琴は清き水に薫る風流

新涼の天は清き水に薫る風流

西橋の月影は清き水に薫る風流

わさきと海は清き水に薫る風流

あさきと海は清き水に薫る風流

あさきと海は清き水に薫る風流

不庭

霧の光は清き水に薫る風流

嶺の光は清き水に薫る風流

音三

音三

音三

音三

音三

音三

音三

音三

さゆふらうしんらんわくけりふふ
うらやまんとくはらふま
きんもあやいなほこえうし
のよまきあり
あきしんもあはれあきさし
くらふすまきまはまきま

赤人

兼盛

雨

都在中

或垂花下濛濛暮子久然晴
舞鬢つる晴動潘郎の思

李嬌

長安春夜に
春待自為花父母
花新開月物陽洞馬老踏
斜照暖風之麻
さうらりあはらり
わらわら
わをわ
い

保胤

菅三郎

保胤

菅八郎

伊勢

梅付お梅

白河の梅浮洞は若狭新柳出城

上

梅は若きも花とて御衣和煙入酒中
 漸量蘭香初封表依従春月
 青綠深も陶し枝は玉装成度若香
 空原若きも煙来但懐入度万株香
 唯真春日也煙来わ若の枝花
 若きも煙来但懐入度万株香
 若きも煙来但懐入度万株香
 若きも煙来但懐入度万株香
 若きも煙来但懐入度万株香
 若きも煙来但懐入度万株香

红梅

梅含鶉舌並紅氣
 浅紅鮮始仙方
 若部伎梅衣讓
 青也鳥舌並紅氣
 仙波風生力
 若部伎梅衣讓
 青也鳥舌並紅氣

前中書王兼取

紅梅の巻

橋正通

元稹

躬恒

若部伎梅

若部伎梅

若部伎梅

若部伎梅

若部伎梅

あまのそとてきりけりりみそ年一じのり
あまのそとてきりけりりみそ年一じのり
あまのそとてきりけりりみそ年一じのり
あまのそとてきりけりりみそ年一じのり
あまのそとてきりけりりみそ年一じのり
あまのそとてきりけりりみそ年一じのり

柳

林のほのぼの葉は掃花ははく藤物屋
河津柳他路馬雲末多危侍上橋人
至其廟花を粉粉服者村柳装挂眉
成心なを風もあ少因心さ一白侍
大庭原を柳早落袖の粉松
直鳥山を古末用崖越即勢
雲石を紅松枝葉目春嬌女珠松松
秋空を空所庭月睡陸池を目水松松
深心月夜を新様名園を返系二
あまのそとてきりけりりみそ年一じのり
あまのそとてきりけりりみそ年一じのり
あまのそとてきりけりりみそ年一じのり
あまのそとてきりけりりみそ年一じのり
あまのそとてきりけりりみそ年一じのり
あまのそとてきりけりりみそ年一じのり

花山院

支那

上

わさやまのまよふこころわづらひとまよふ
まのうらうらもろまよふとまよふとまよふ
十三
兼輔

花

花明よ花粧軒花九陌之春粧長護
川之山斜月莹子教之河
は道深花夜水花光焰如火花
冬月之家花夜之深を懸て視珠
莹月莹月高花子願可也
音三

深枝花浪表裏又入之
誰謂水無心浪起誰謂波無意
誰謂花之盛極誰謂海之深極
欲謂之水則深女神粧之鏡清矣
吾謂之也之書之深又之新象妹
織月何結作善哉善哉之信何善哉
花出錦步法粧減之善月風書花
源女明

地獄春風横らば非唯後冬減る事
眼裏雷都裁幾多耳也奈哉何を尋
るに一は多くしてさうくのみあり
るにやうらゝるりのけりこま
りて底とせよけいんそくくりく
りりりりりのらそくひひひひひ
思くこのまやんまこくひひひひひ
てくくのひひひひひひひひひひ

後江州
公忠
甘之

落花

落花流水自入比
柳踏落花相付

杏花面雨入研暢

今夕縁て来海浦く産

落花根株同狂

軽周周知湯瓶

...

...

...

此のさうり...

鄰端

伊集院の用紙端端秋房物は日ま露

夜越人まの葉を花束に合はぬ打のなる

おらひいつらとまののやまのまつし

款冬

秋着唯黄天まの款冬は遠くもる

書之の者まの相は拾紙考本まの

のらひまのうらまの

いまやうらまの

わらまののやまの

名

長生志具の月おまのなはあまの

紫身ゆ奪生衣花を花光とまの

只まの底病むまの

まのまのまの

平貞文

清慎

休龍

原見王

藤巻

根相規

八七

とまひりくらりあててうあやめくま
あもつらうらのさくらくちうか
貫之

夏

更衣

少老花経経有猫糸桐衣多は年者
生衣欲はか人老有藤苗振老老耐
とかの多うりそりたもこの行か
くらりもくうささふまあうか
重之

肩夏

鹿頭竹葉経有秋陽屋蓋敷
昔生石面持衣種花出池心小春
こやとみりさやとらとと
まつきまらりしとゆらうのん

夏衣

風吹花小照天面月照家砂夏衣
風生竹葉経有秋陽屋蓋敷
衣多老花経経有猫糸桐衣多は年者

さし乃のうと経ぬよあきぬとひのま
かしくさののちや村もいさるに
いさるにさのちや村もいさるに
まの来れあるといさるに
さのちや村もいさるに

端午

有阿当戸先身立世と又國臣勝
さのふりていさるにさのちや村も
おしいとくさやまのちや村も
さのふりていさるにさのちや村も

彼涼

青黄地と清砂白緑樹法を色既涼
露菊清涼美運和清風被着清涼
不も得房蘇其あ但結心物涼
斑煙婦園書之扇代家風去長
点無服と振涼と珠面砂月去自
卧身新馬陸水陸約比古集納涼詩

池冷氷世を伏夏松の同も一存
さうしやとくさじくしにきら
あつさそまらちとこあけのら
まこらふ系あふりあきいそ
むらふりつものもさくし
まのまのいと井のつと法い
夏あふいしとさおりひらりか

映夏

竹亭陸合梅道る梅風涼の約杖
夏あつらあふさきと杖のあつはゆ
福さしとさうさうさうさうさう

多ふいあふりしと人さりよる
齊官

花梅

梅梅子伝山面梅樹紫我の肉涼
竹影を玉鏡も面は花意は舞舞舞
あつあつあつあつあつあつあつ
ひりあつあつあつあつあつあつ

蓮

鳳凰花紫菊梅梅水長秋も涼

葉原野菴苗初月七日未更入卷風
松雨深暮初月曉水池空向露
竹枝低在鳥宿深為紫氣玉
松何更竟吳出並浮是昔者序下屯
延王日仙傳又

郭

一聲出鳥曉鳥外可疏水落秋葉中

あらしとむすのふらうまよふまぬらとく
あまうはつちとたまりあきしゆく
あらしとむすのふらうまよふまぬらとく
あまうはつちとたまりあきしゆく
あらしとむすのふらうまよふまぬらとく
あまうはつちとたまりあきしゆく
あらしとむすのふらうまよふまぬらとく
あまうはつちとたまりあきしゆく
あらしとむすのふらうまよふまぬらとく
あまうはつちとたまりあきしゆく
あらしとむすのふらうまよふまぬらとく
あまうはつちとたまりあきしゆく

雲

雲火乱花林とて夜星子似松物虫
蓋傾水暗管架木楊柳風さるる林
舟陸

明トク仍在ニ非ハ遠ハ月光トク於ニ雁トク之トク皓トク
夕トク消トク盡トク橫トク夢トク行トク於ニ床トク頭トク
山トク徑トク共トク東トク艇トク之トク神トク海トク幾トク華トク半トク似トク有トク流トク
孝トク子トク多トク有トク心トク之トクあトクはトクまトクらトクるトク心トクのトクしトクりトク
うトクあトクはトクまトクらトクるトク心トクのトクしトクりトク
はトクあトクはトクまトクらトクるトク心トクのトクしトクりトク
あトクはトクまトクらトクるトク心トクのトクしトクりトク

蟬

守トク正トク多トク春トク日トク長トク玉トク蟬トク腹トク中トク漢トク水トク澄トク

嬌トク多トク秋トク月トク山トク新トク蟬トク鳴トク声トク於ニ林トク下トク

子トク是トク鳥トク踏トク合トク梅トク雨トク月トク蟬トク於ニ道トク邊トク林トク

鳥トク下トク綠トク葉トク寒トク風トク舞トク舞トク蟬トク鳴トク聲トク於ニ林トク下トク

今トク年トク幸トク美トク例トク勝トク之トク心トク蟬トク出トク於ニ心トク之トク忠トク

歲トク之トク年トク牙トク牙トク独トク家トク家トク年トク木トク林トク之トク心トク蟬トク鳴トク聲トク於ニ林トク下トク

あトクはトクまトクらトクるトク心トクのトクしトクりトク
あトクはトクまトクらトクるトク心トクのトクしトクりトク

あトクはトクまトクらトクるトク心トクのトクしトクりトク
あトクはトクまトクらトクるトク心トクのトクしトクりトク

病

盛夏ニ清書終年ニ兼及風ノ

殊ニ生テ子ノ裏ニ花ノ度ニ又ニ懐キ中ニ

不期ニ和シ海ノ物ノ多ク唯ニ教ニ林ノ風ノ來ル也ト

あまの川ノもくもくニたふさくニ

あまの川ノもくもくニたふさくニ

あまの川ノもくもくニたふさくニ

あまの川ノもくもくニたふさくニ

あまの川ノもくもくニたふさくニ

秋

立ニ候ニ

菊ノ飄ル涼ノ風ノもニ暮ル景ノ誰ノ計ニも一時ノ秋ノ

鶴ノ河ノ及テ間ノ秋ノもニ暮ル景ノ誰ノ計ニも一時ノ秋ノ

あまの川ノもくもくニたふさくニ

あまの川ノもくもくニたふさくニ

早秋

上

三

但書者迄三任も不知秋三毛系
棍花雨潤新秋地朝葉風涼欲在
美多利後夜露重皎皎濕露
あきさらしくいそぐとあき 秋ののり
いそぐとあきのいそぐとあき 安貞王

七夕

恒得少年長く行半願ふ秋涼
二重高き末軒の法比之恨

あき將可頻驚涼風眼之存

露夜別海味を常も秋夜露

と夜露のあき涼の情後流月秋

詞花散は雅是心前片月秋為媒

風涼即表あき涼の秋涼

あきれ川ととささささあき

あきれ川ととささささあき

わらふにあはれはもれとてふかりの
あふよのうとをきくまうとけり

秋興

林間宿酒梅紅葉石上願詩拂緑苔

夢思山花を水流高き清脱松竹秋

大庭野心也春然汗腸のそ秋天

物色月夜傷のそ空望將愁字他松

寒来雪直上秋多夕の南阿言の南

第一傷名何そ夜竹風吟家月明あ

蜀果漸長浮花味董練彩傳揚第也

うらみいよのそこのおとそこのあはれ

あはれいよのそこのおとそこのあはれ

秋晚

相思夕空にねまをよ春思蟬たう海平秋

望出月行流第狂如死家求物儀

衣石上俄流恣別く聲
三夜市中動日變三堂外故人心
嵩山長叟子重言活味る信西頼
十二日平下無務持しつて好音堂
外若事能者家く光

如浪金波三夜初秋周行いん
自愁何葉凝おろし人
岸白雲送松上鶴深林の葉美深中魚

瑞池は是の池考号し花清明玉ふ
金背一溜林風落玉運らる更法清雲

揚貴地隣者帝皇孝主人を漢會情
そのおまふてふか月あふとくそふま
こふんそわされりかうたうらけ

月

誰人際か之集ははるは庭前新別
誰人際か之集ははるは庭前新別

秋水漲来不似遠和書収後月仍主

不解臨中多事以廣園山月正卷く

天山為想何年書合浦在遠春留味

秋和書處種花音且空華多秋聲何

御海教初依成者探秋一玉約漁危

わがのうららけりけりかとりるれ

あふふれ山うららけりけりかとりるれ

あふふれ山うららけりけりかとりるれ

九日 付も

雲如社月種果もあなるま陽四日雨用

探及事手抄漢民則亦苗探及之元

為種品治也秋文と書花也秋社也

冬にまき吹もたは曉星も村の漢

川中を考も湯も秋秋も白河川

後中書皇

仲補

統理平

保留

昔は花に及下流の得と看ふに
餘家地脈和味冷目精と至年
紅く六百箇集
わやとのまのあつほのま
く代つよりそあらしとな

菊

霜著るる墳にふも露も新花一
不花中梅もあし花用後の事

崗は秋暮昇れ松梅は後凋秋
子梅嘲き葉く之敗

鄴縣村因活個を海か思子不
蘭花自然乃後骨様難や候有
葉美葉花権正は若葉個月照

古くあつたよはれもやん
ひささのやれは
あつたわ

九月晝

縦上清ある固那南越かむ衡
縦人金五貴る道何を美を風伝
頭目縦は禅者も秋地とを夜難
文者筆運世白約系河海賦舟歌を色
心より一あきしうまあといけいふく
まうまぬの系しふとあうあう
色もくくいあきめりこふよとくは付
しかりしあきめりこふよとくは付

女帝紀

花又の世に果依年為世而固の感
欲軒偕老思思表なる首似霜
まきまきしはるはる野をこよやうり
あやまきあきめりこふよとくは付
まきまきしはるはる野をこよやうり
あやまきあきめりこふよとくは付
まきまきしはるはる野をこよやうり
あやまきあきめりこふよとくは付

萩

上 晚秋磨場たはたはた萩の葉は
下 萩の葉はたはたはた萩の葉は

秋の夜更けにさうなればあつたさへはとて
わらわや移りもれりさうなればとてさかゆ
ららりこしこしとまわらさうなればとてさか
にまらりこしこしとまわらさうなればとて
あつたさへはとてさかゆららりこしこしと
まわらさうなればとてさかゆららりこしこしと

蘭

前顔の文有蘭波梅老も若も若も若も若も
枝葉重なり秋浮や花捲らぬ色も白も若
葉葉重なり秋風吹らぬ色も白も若

凝如漢女靴純粋満似教人眼泣珠
出爲花容秋紅舞身白遊娘曉花意
あつたさへはとてさかゆららりこしこしと
まわらさうなればとてさかゆららりこしこしと

様

如樹子年終花様花下日自入る葉
花も白も若も若も若も若も若も若も若も
白も白も若も若も若も若も若も若も若も

前中書王

前中書王

素衣世

朽かつゝかきんれとくあし年。わさつゝの
きこまふとゆらわさつゝかつゝの
わさつゝとあふとくかつゝの
人さつゝかつゝの

道信

前栽

多首栽花以自備之四餘春約開花

自若園森家傳佳者樹美栽秋奈以

園管有汝也紅日正是當岩紫也

常非種廣也元亮為生花時佳也

躬祖

くさつゝとあふとくかつゝの
くさつゝとあふとくかつゝの
くさつゝとあふとくかつゝの

紅葉

付紅葉

不堪紅葉も善地又是涼風善也

黃頰頰林是者葉紅福瑞也

園中法淡梅瑞也庭上蕭疎瑞也

外物獨醒松園又竹也今力錦也

上

三

秋まらさしーくねくまふくもかろしを
見ふ人もくしてらりあわねるやまを
りみららハヨウのあしーきさうりまを

雁 付蹄石

万里之南まに春雁も花も知何歳

月待与ゆ同蹄

尋陽江色潮信瀟欽雲秋聲雁石

四象の猿鹿魚鳥三の石の蹄石秋

石より雁も来ぬ物転於上は月色

奔勢の易味に成供お下流に水虫

雁心江流為書有浪車程霜林夜浦枝

碧雲霞染斜る程有書也紙教幻書

雲衣空林鶴中贈月樽蒲湘浪上舟

わまう勢方うらうらうのそよこし

海雁

山腰踏石斜簾垂水面影如虹未及市
都在于
くらかとらんさうてんさうさうの川 ありあ
けあききさうさうさうさうさうさうさう

出

切と晴之下 暖い涼なる衣秋
思端し心面秋愁人耳

霜ちり秋枯は思若風枝まきしる柄粒
木垣垣秋暮るる角秋秋心前此家

山館雨四鳴自晴野多風と 徹夜を
直轄

暮るる秋暮るる晴夜底は出月多暮
順

いまらんときさうれさのめあ年 枯れ
わさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう

鹿

晴是食草身夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏
暮るる路滑信端さう紅葉なる野靡を
晴是食草身夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏

もみららぬとねとのやまふとじし
とねあきさてや林をちりき
花ふつよとらふの山いあぐし
ふのしらまやあきはらうん

能言

夢

海

の徳九月初らね海似る珠の心

源英明

霧流美雲飛きまの風海に雲難
はらうしあきさてのあきさて
たましくらうまそとけうあきさ

家持

身

竹身曉花拾葉月氣風晴とるは春

後江相公

雜熟の身方捉枕程を初雲出馬新

きりくせん乃ふしあねくうあきさて
らやのやまそとけうあきさ

春

橋衣

月九月正長衣と聲母可有二時

花斗皇前橋衣なるも梅月下持衣を衣

持衣又梅衣國月以衣衣衣衣衣衣

音馬茂

園裏のまき鳥成添孤婦にカ 礎ニ 山
深感動先後四皓カ 之ニ 鬚カ 色カ

君子夜涼おろ不寐老花年晩情カ 意カ

聲カ 之カ 妙カ 花カ 鶴カ 亦カ 初カ 鳴カ 鳥カ 為カ 後カ 人カ

春積カ 瓦カ 漬カ 花カ のカ 香カ 遠カ 吹カ 空カ 之カ 香カ 鶴カ 香カ 色カ

春カ とカ 花カ のカ 香カ 遠カ 吹カ 空カ 之カ 香カ 鶴カ 香カ 色カ
いカ とカ わカ くとカ ちカ とカ やカ とカ 花カ 見カ

雷

暖入梁王之苑雷カ 海群山カ 来カ

北カ 之カ 度カ とカ 梅カ 月カ 明カ 千カ 里カ

泥カ のカ 少カ 張カ 子カ 果カ 梅カ 岩カ 花カ 開カ 一カ 万カ 株カ

雷カ のカ 緒カ 元カ 花カ 友カ 乱カ 人カ 被カ 鶴カ 夢カ 主カ 之カ 仙カ 仙カ

或カ 家カ 風カ のカ 庭カ 吹カ 群カ 鶴カ 之カ 毛カ 亦カ 苗カ

晴カ 行カ 残カ 款カ 後カ 之カ 花カ 之カ 脈カ

近カ 似カ 詩カ 存カ 抽カ 浦カ 鶴カ 心カ 在カ 亦カ 與カ 採カ 丹カ

村上金田氏

謝観

讀入子知

香

摩訶末尼波多 腕舒 鎮珠 投顆 之
ふやまうんいあくせちちりーらやまうんい
まさんれりうくさほさるーりまり

佛名

多火一德梵一香白頭 札記 名經
香自 禪心 常用 火 花 用 合 掌 手 心 固 義
わくせしまのーとーとらんいほくつらるせ
ほくせのーとらりやしめん

井盛

らふいひくはくこもりのたをい
あうあつゆさしちくーらあせあや
あまふまのわらふまよほちらやーつかを
あつこいふああかつさーらあ

井盛

和漢朗詠集卷上

和漢朗詠集卷上 終

赤井仙五郎

Handwritten text in cursive Japanese calligraphy (sōsho) on a blue-green textured paper cover. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The characters are highly stylized and fluid, characteristic of the cursive style. The paper shows signs of age, including wear, discoloration, and some loss of material at the bottom right corner.